



(題字は初代学長 山田守英氏)

# 第 170 号

平成 30 年 3 月 31 日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課



「至福の時」

(写真撮影：学生支援課)

## 教授就任のご挨拶……

歯科口腔外科学講座 竹川 政範…… 2

## 学生海外留学助成制度を利用して

医学科第3学年 森 太一…… 4

医学科第3学年 平田 朋浩…… 5

第6回医学科白衣式を執り行いました…… 6

平成29年度前期授業評価…… 7

大学の森みどりの保育園で「ぬいぐるみ病院」を実施…30

課外活動備品の購入補助を行いました……31

医学科第5学年地域枠学生との懇談会を開催……31

学生団体代表者との懇談会を実施しました……32

新歓行事等における飲食事故の防止について……33

安否確認システムへのメールアドレス登録について…34

ソーシャルメディアの適切な利用について……34

## 平成30年度

保健管理センター健康相談日・行事予定……35

国民年金の学生納付特例制度について……38

教員の異動……39

今後のスケジュール ……39

訃 報……40



## 教授就任のご挨拶

旭川医科大学医学部  
歯科口腔外科学講座

教授 竹川 政 範

平成30年1月11日付けで歯科口腔外科学講座教授を拝命いたしました。私は、旭川生まれで、小中学校はのどかな鷹栖町で育ち、旭川東高等学校から日本大学松戸歯学部へ進学、昭和59年大学卒業後ただちに地元である旭川医科大学病院歯科口腔外科に入局しました。

入局当時は初代教授の北進一先生が口腔外科臨床、教育、研究に情熱的に取り組まれており、特に口腔腫瘍、口唇口蓋裂手術では、ダイナミックでかつ繊細な手術に感動したことを今でも記憶しています。当時、9階東病棟に歯科口腔外科の患者が入院しておりましたので、第一外科の先生方には全身管理をはじめ患者管理について、たくさんのアドバイスやご指導を頂き、歯科口腔外科医としての基礎を身につけることができました事を感謝しております。

北進一初代教授、松田光悦2代目教授のご指導の下、私は旭川医科大学で臨床、研究、教育に携わってまいりました。研究面では、歯科口腔外科は歯・顎骨など硬い組織を扱うことから講座開設以来、硬組織に関する研究をテーマにしています。1980年代90年代は、骨移植材料、骨移植をテーマに、松田教授、西村泰一先生の下で研究を行い、放射線照射後の骨修復に関する研究で学位を取得いたしました。その後2001年から1年8か月間、カナダ ブリティッシュコロンビア大学歯

学部の細胞生物学教室に留学させていただき人工歯根の研究に従事しました。帰国後はその経験を生かして幹細胞を使用した骨再生の研究を現在まで続けております。

歯科口腔外科では顎変形症、顎骨腫瘍、埋伏歯、口唇口蓋裂などの診療を行っておりますが、最近では口腔ケア、インプラント治療による口腔機能の回復など歯科口腔外科の診療範囲も広がっています。インプラント治療に関しては、口腔疾患の手術後に生じる顎の欠損に対して咀嚼機能を改善する治療を行っています。当院は北海道では数少ないインプラントを使用した広範囲欠損補綴治療の施設認定を受けておりますので、今後は顎骨腫瘍、口唇口蓋裂や外傷等による口腔機能低下した患者様の口腔機能の回復に適応拡大を行いたいと考えています。さらに、講座の研究テーマである骨再建・再生の研究を発展させて、顎骨欠損修復に再生医療の応用を考えています。

がん治療等の際に行う口腔ケアに関しては、術後合併症の減少、医療費の削減効果がある事が認知されてきました。そのため、手術前後、がん化学療法中の口腔ケアの需要が増大しています。がん患者様を支える医療としての口腔ケアを院内で充実させ、さらに普及させるために努力いたしますので皆様ご協力の程よろしく願いいたします。また、口腔ケアとその効果に関しては、いまだに基礎研究

が進んでおらず科学的根拠のある報告が少ないことが指摘されています。今後、口腔ケアが全身に及ぼす影響に関する研究を進めたいと考えています。

国際貢献では、麻酔科蘇生科、看護部のご協力を頂き、日本口唇口蓋裂協会が実施しているベトナム社会主義共和国ベンチェ省医療援助活動へ参加しています。本活動は現地の患者さんやご家族から感謝されており、毎年われわれの訪問をお待ちになっている患者さ

んがたくさんおります。本活動には旭川医科大学の医学部学生と看護学科の学生も参加しており、彼らにとって貴重な経験となっています。今後とも本活動は継続していきたいと思えます。

歯科口腔外科学講座は各科、各部門の皆様との協働の上で成り立っています。旭川医科大学の発展のため微力ではございますが誠心誠意努力致しますので、皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い致します。

## 学生海外留学助成制度を利用して

医学科第3学年 森 太 一



2017年8月5日から8月19日、海外ビジネス武者修行プログラムに参加しました。動機としては、1つはビジネスという全く未知の領域の勉強をしてみたい

という好奇心、2つはこのプログラムに参加すれば何か成長が得られるのではないかという直感からでした。

この2週間、30人の同じメンバーと朝9：00～10：00の朝礼、夜19：00～21：00の終礼で、チームビルディング、ビジネスについての知識をプロの講師(企業研修を普段行っていたり、コンサルティングを行っている人達)から学びました。そして、それ以外の時間ではあらかじめ決められた4人のチームに分かれ、配属された店での新規事業を立ち上げました。ただ、ここで行われるのは机上の議論だけではありません。現地の人、観光客(世界遺産都市に店があるので観光客はととても多い)へのニーズ調査、アンケートを経て、ターゲットの絞り込み、売る商品やサービスの絞り込みを行いました。さらに、商品、サービス提供のために必要なものを現地で調達するための企業との交渉、仕入れ、商品販売、結果分析、事業継続のための方策等々、全てを2週間で行いました。

この激動の2週間で学んだことは、大きく2つありました。1つ目はチームビルディング能力、2つ目は社会に出てからの学びの方法の2つです。

1つ目のチームビルディングを学んだというのは、良いチームを作り、良い結果を出す上での必要なことを身をもって学ぶことが出来ました。上述したように4名のチームで事業立ち上げから全てを行います。そのため、

より良いものを作ろうとする中ではチーム全員が活発に議論し、さらに尊重しあいながら仕事を進めなければなりません。このように、力を合わせるために深く相手を知り、そしてより自分を知れたと思います。言うことは簡単ですが、実践を経て自分のものになると感じました。

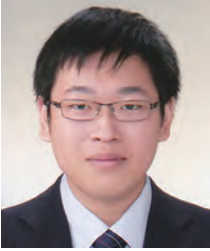
2つ目の社会での学びとは、これは自分の人生を切り開いて歩いていくには、どうすればいいのかを知り、それを学ぶきっかけを得ることができました。大学受験までの学びと大学入学後の学びは全く異なります。大学受験までは点数を取る、そして大学に入るという分かりやすいルールがありました。(大学で試験勉強をするのは前提として)しかし、大学以降、僕たちは自らルールを敷き、目的場所を調整しながらルールを走っていかなければなりません。ルールの敷き方から考えなければなりません。例えば、AIが発達し2040年ごろシンギュラリティが起これと言われるなか、医師として、人としてどのように自分の人生を生きていきたいのか、自分の人生をどう切り開くのか、そんなことを自分に問い学べるプログラムでありました。

このように、プログラムの名前にも武者修行とありますが内容はとても濃く、まさに修行のような2週間でした。

今回このような学びを得られたことは、今後の人生の糧になると思います。そして、最後になりましたが、今回助成を得て学ぶ機会を得られたことを深く感謝いたします。

## 学生海外留学助成制度を利用して

医学科第3学年 平田 朋浩



タイにあるマヒドン大学は熱帯医学において権威ある大学で、この大学での短期研修に参加をさせていただきました。研修では寄生虫・ウイルスなどによって媒介される熱帯病を深く学ぶことができました。

例えば寄生虫に関しては、消化管寄生虫症・アメーバ肝膿瘍・蠕虫症についてタイ独特の文化などを交えながら疫学・診断・治療について講義がありました。マヒドン大学はほかの熱帯医学を学べる大学よりも患者さんが多く検体が多くあるのがメリットで、実際に患者さんの検体から寄生虫卵を同定し、原因を同定するという実践的な研修も行われました。

医療先進国と言われる日本ですが、つい最近まで熱帯病として有名な寄生虫病が多く確認されていた時代を経験しています。直近の話題としては2014年のエボラウイルス病パンデミックがあります。このように熱帯感染症の脅威は身近にあります。日本で熱帯医

学を深く学ぶ機会は多くありません。LCCの発達やオリンピックの開催などで海外からの旅行客・日本人の海外旅行が増えているのにも拘わらず知識がないまま医療に携わることは患者さんにとっても医師にとっても危険です。今回の研修は現役の医師など医療従事者をメインとしたものでしたが、学生として特別に参加を許していただき熱帯医学の分野に深くかかわっておられる先生方の講義や交流をすることができました。1週間という短い期間でしたが、今後の勉強の方針や将来設計の糧とすることができ密度の濃い研修となりました。

日本では滅多に経験できないこの分野の研修を受けるためには今回のように海外へ赴かなければいけないと思います。その際、最も障壁となったのが金銭面でした。大学としても海外で勉強する機会の重要性を理解しているため、この制度を設けていると思います。今回このような助成制度を利用して学んだ経験は決して無駄にせず今後に生かしていこうと思います。

## 第6回医学科白衣式を執り行いました

平成30年2月16日(金)に、本学大講義室(看護学科棟1階)にて第6回医学科白衣式を執り行いました。

白衣式は、これから臨床実習が始まる医学科第4学年に“医師のプロフェッショナリズム”を意識させることを目的に行っている式典です。(北海道では本学のみ!)式典には本学教職員の他、医療面接実習・共用試験OSCEなどでお世話になったSP(模擬患者)さんなど、地域の方々にもご出席いただきました。

式典では、学生一人ひとりが、指導教授・理事から袖に大学のブランドマークが付いた白衣を着せていただき、学生が今までの指導に対するお礼を述べたり、教員が今後の努力を期待して言葉をかける姿が見られました。

吉田学長からは、「グローバルな視点を持ち、ローカルのニーズに応えられる医療人になってほしい。」と、激励のメッセージが贈られました。

白衣式では白衣の他に、「Student Doctor 認定証」が代表学生に授与されました。この認定証は、医師免許を持たない学生が、実

習を行うに足る最低限の知識・技能・態度を備えているということを患者さん・実習先に証明するためのもので、今後はStudent Doctorとして、更なる知識の習得・技術の向上に努めます。

式の最後には、学生が考えた医療人としての目標を〔42期生誓いの言葉〕にして、第4学年出席者全員で宣誓を行いました。

白衣式直後、臨床実習がスタートしました。誓いの言葉どおりの医療人になるべく、励んでいることと思います。

### 〔42期生誓いの言葉〕

初心を忘れることなく、常に高い志を持って日々精進し続けます。

人に寄り添い、全ての人を思いやる医療者を目指します。

チームで連携し、互いに尊重しながら最善の医療を尽くします。

高い倫理観と広い視野を持って、国際社会に通じる医療者を目指します。

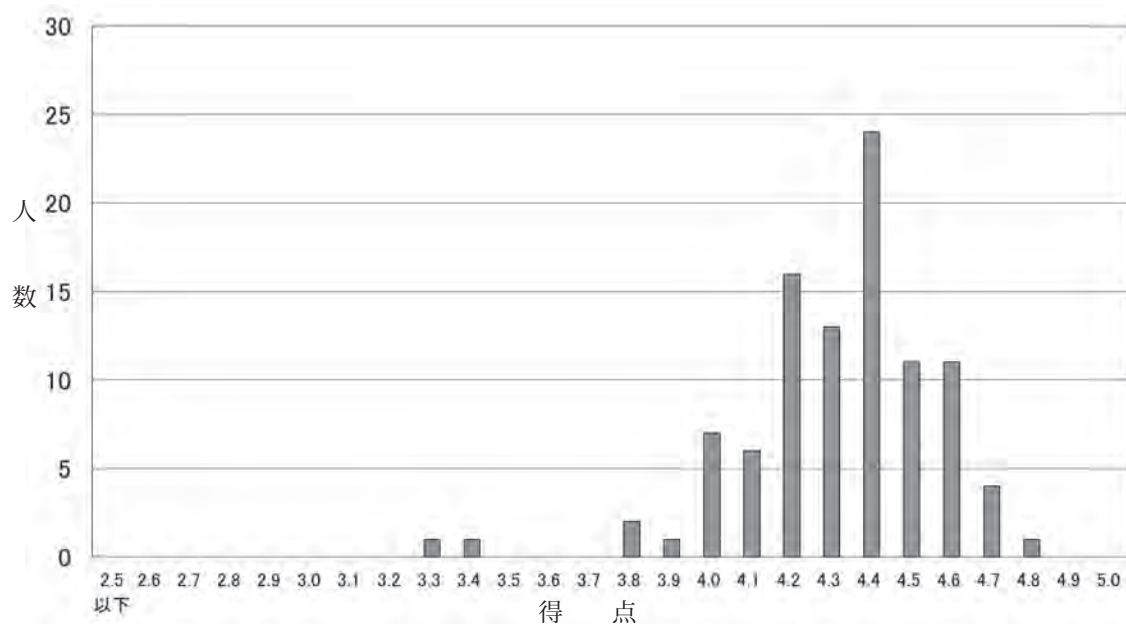
仲間と共に切磋琢磨し、高めあえる関係を築くことをここに誓います。



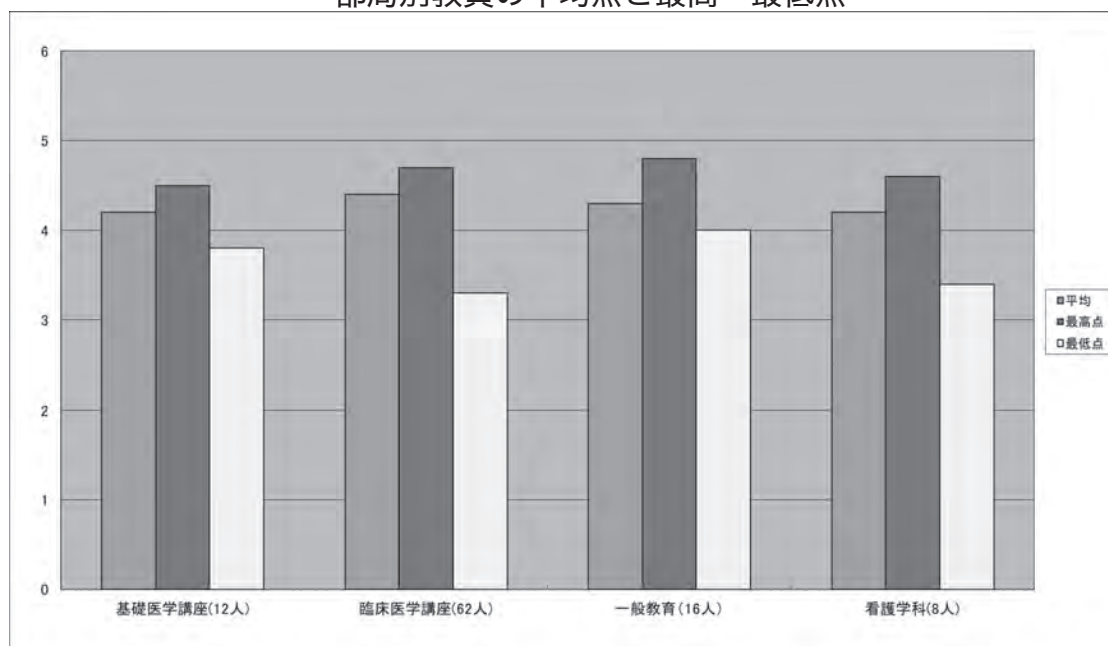
## 平成 29 年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

		得 点																									
		2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
人数		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1	7	6	16	13	24	11	11	4	1	0	0

(実施人数98・平均4.3)



### 部局別教員の平均点と最高・最低点



### 講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強くそう思う    | (非常に良い)   |
| ④ やや思う      | (良い)      |
| ③ どちらとも言えない | (普通)      |
| ② あまりそう思わない | (あまり良くない) |
| ① 全くそう思わない  | (良くない)    |

## 科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履習態度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2 授業に毎回出席しましたか。
	問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)  
 ④ やや思う (良い)  
 ③ どちらとも言えない (普通)  
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)  
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：自然科学入門（生物系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：77 配付数：77 回収数：76 回収率：98.7%

### \*評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.7	3.9	3.0	3.3	3.6	3.9	4.3

### \*評価に対するコメント

自然科学入門（生物系）担当教員

『本講義の目的は、高校「生物基礎」の教科書を題材にして、生物学の基礎を学ぶことである。本年度から、理解度テストという形で、計4回、講義の終わりに記述問題を解く時間（10分）を設けた。回収した解答の中で優れていたものを講義の中で紹介し（匿名）、解答解説を行った。学生からは「記述問題で授業の理解を計る事が出来た」との好意的なコメントがあった。来年度も、学生の理解を深めるような試みを行いたいと思う。』

科目名：自然科学入門（物理系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：35 配付数：34 回収数：32 回収率：94.1%

### \*評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.8	4.1	3.2	3.5	3.3	3.3	3.8

### \*評価に対するコメント

自然科学入門（物理系）担当教員

総合評価は、昨年度から0.5上昇し3.8となった。各評価項目を昨年度と比較すると、問1から問4の学生自身の努力に関連する項目が0.3から1.1程度上昇しており、ここ数年で見ても最高値である。このことから、学生自身のモチベーションの高さが、講義内容の理解度の上昇につながり、これが科目に対する満足度の上昇につながったものと思われる。今後も科目に苦手意識を持つことなく積極的に学んで欲しい。



科目名：医療概論 I（医学科第 1 学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：95 回収率：84.8%

**\*評価結果(平均)**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.1	4.5	3.7	2.4	3.4	3.5	3.7	3.7

**\*評価に対するコメント**

医療概論 I 担当教員

本講義は、医療に通底している哲学的テーマについて検討することで、医療現場で哲学の思考法を使えるようになることを目的としている。科学的知見や経験則を覚えることが主体になってしまっている現状において、医学を学び始める段階で、自分で「考える」ことを経験し、今後の学びの基礎体力をつけることを意図している。テーマの性質上、ひとつの答えはなく、難易度が高いように感じられたかもしれないが、学年があがるにつれて、または臨床に出てから、本講義の意義に気づくことになるだろう。

科目名：情報統計学（医学科第 1 学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：101 回収数：95 回収率：94.1%

**\*評価結果(平均)**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.3	4.5	3.3	2.4	3.4	3.2	3.3	3.8

**\*評価に対するコメント**

情報統計学担当教員

昨年度と比べて、全体的によい評価をいただきました。問 2 3 が比較的高く、問 14 は低い傾向は続いています。予習に関してはやや改善されました。授業前の予習の必要性を強調しており、長い間に培われた慣習が少しずつ変わっていくことを期待しています。今年度は欠席も少なく、「統計学の基礎」に関する授業後、試験前の質問数も多く、予習復習が進んだことを示すレベルの高い内容も多くありました。学年が上がっても切磋琢磨されて、よい雰囲気継続されることを願っています。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。「情報リテラシー」での授業成果は、大学教育用ホームページにて、各年度の入学者ごとに公開されています。

科目名：地域医療学（医学科第 1 学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：97 回収率：86.6%

**\*評価結果(平均)**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.3	4.8	3.9	2.5	3.8	3.8	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

地域医療学担当教員

アンケートより、授業は地域医療の現状とそれに対して我々がいかなる行動をとるべきかについて考えさせるという機会になっていると判断できる。結局地域医療再生には、若い医師が自ら行動するしかなく、そのためには教育が最重要と考える。今後も同様に授業を行っていきたい。

科目名：心理学（医学科第 1 学年前期／必修）

履修者数：113 配付数：112 回収数：109 回収率：97.3%

**\*評価結果(平均)**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.1	4.1	3.4	2.3	3.4	3.6	3.6	3.9

**\*評価に対するコメント**

心理学担当教員

本講義の目的は、医療に必要な心理学の基礎知識を修得することであり、基礎心理学・臨床心理学・発達心理学の 3 分野から構成されている。予習・復習についての評価は 2.1 2.3 となり、前年度と同様に低かった。したがって、今後は、関連する書籍を紹介するなど講義以外での学習を増やすための工夫が必要である。一方、出席と努力は 4.1 3.4、難易度と学習意欲についての評価はともに 3.6、科目全体の目的到達についての評価は 3.4、満足度は 3.9 であり、一定の評価が得られた。評価が安定している理由としては、各分野の知識を厳選したこと、資料を毎回配布したこと、実験等を適宜取り入れたことが考えられるが、満足度をさらに上げるために今後も講義内容を改善してゆく必要がある。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：74 回収率：62.7%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.3	3.7	3.6	3.7	3.5	3.5	3.8

**\*評価に対するコメント**

生化学1担当教員

生化学1は、生化学2および機能形態基礎医学など一連の基礎医学系科目の出発点として、また生化学実習のための基本を学ぶ科目としての意義を持たせてあります。複雑な代謝反応とその制御、それらの異常による病態発症など、生命現象を分子レベルで理解する"生化学"の重要性を認識し興味を持って学習できるように継続的に改良しています。講義ごとの小課題により重要ポイントを復習することや、講義日程終了後でしかも生化学実習の開始前に単位認定試験を実施するなどの工夫により学習効果があがるよう企画しています。自由記載コメントでは、授業レジメが良い(二名)に対し改善を求める意見(二名)、小テストの有効性を認めたコメント(一名)があり、今後さらにこれら企画を改善・継続するよう判断しています。授業評価点では問1(自身の予習)の評価点が低いこと(2.6)、再試験対象者も多い(9名)ことが極めて残念です。今後、各自の発奮を期待します。学生の皆さんには、日々の予習・復習及び小課題レポート提出など、自学自習の習慣を身に付けさらに徹底していただきたいと思います。

科目名：機能形態基礎医学I（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：124 配付数：54 回収数：43 回収率：79.6%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.2	4.0	3.1	3.1	3.1	3.5	3.3

**\*評価に対するコメント**

機能形態基礎医学I担当教員

今年度は、昨年同様の講義内容・講義方法であったにもかかわらず、総合評価点が大幅に低下した(昨年3.9、今年3.3)。本学で、医学生にふさわしい自発的な努力(教科書や参考書を用いた予習・復習)や知的好奇心を期待して、我々が想定する医学部水準の組織学講義を従来の教授法で提供するというのは、もはや無理なのかもしれない。そこで、来年度は、「アクティブ・ラーニング」の発想で学生の相互教授・相互評価による授業を部分的に導入し、自学自習せざるを得ない状況に学生を強制的に追い込むことを考えている。

科目名：医療社会学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：91 回収率：77.1%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.3	3.2	2.5	3.1	3.2	2.6	2.6

**\*評価に対するコメント**

医療社会学担当教員

今年度の医療社会学では、医療社会学の知識だけでなく、医療社会学実習で必要となる社会調査の方法論なども扱いました。学生評価の結果をみると、授業の難易度が適切ではなかったようです。これは、担当教員が想定した学習の準備状況と履修者の準備状況のあいだに差があったためだと考えています。来年度は、より基礎的な知識を扱うことで、適切な難易度で授業をすすめることを考えています。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：117 回収数：107 回収率：91.5%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	3.9	3.7	3.1	3.5	3.5	3.7	3.8

**\*評価に対するコメント**

生化学2担当教員

生化学2は生化学1の内容をさらに発展させて代謝とその異常による病態を一連の講義展開により分子レベルで理解できるように、そして機能形態基礎医学など一連の基礎医学系科目の出発点となるようにカリキュラムを組んでいます。毎回の講義では小テストやレポート課題により重要ポイントを復習して各自が学習効果が高められるよう企画しています。自由記載コメントでは、臨床・健康維持・食生活との関連性などが分かりやすく役立つ、小テストや課題が学習に役立つといったコメント（計6名）、授業レジメの改良（カラー印刷や大きな紙面での印刷）を求める意見（二名）があり、今後さらに改善・継続し、これら要望にも対応可能な範囲で答えていきたいと判断しています。授業評価点では問1と問4（自身の予習・復習）の評価点が低く（2.7、3.1）残念です。本科目の内容は、生命現象を分子レベルで学ぶものであり医学の基礎を成すものです。生化学1やこれまでの講義科目に比較して分量や難易度が増していると感じることはあるかもしれませんが、本科目習得の必要性と今後展開される基礎および臨床医学の学習に備えるためにも、予習・復習及び小課題レポート提出など、日々の自学自習の習慣を身に付け、さらに徹底していただきたいと思えます。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：121 配付数：120 回収数：93 回収率：77.5%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.6	3.9	3.3	3.5	3.6	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

免疫学担当教員

問7で3.8、問8で4.0の評価を頂きました。そして講座間で連携が取れていないとの指摘を受けました。これは、免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで未だ不確定な要素の多い、難しい学問領域のためかと思われます。また専門の講座もないため、多くの講座の先生によって開講されているのも要因です。ぜひ学生諸君には、自ら学ぶ姿勢で、講義で疑問が生じた際には、遠慮なく教官の方へ質問していただきたいと考えます。定期試験の問題のレベルは至って標準的なものです。最低限はクリアしてください。

科目名：医用機器学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：117 回収率：98.3%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.2	3.5	2.6	3.4	3.6	3.5	3.7

**\*評価に対するコメント**

医用機器学担当教員

昨年は追再試験時に学生評価を実施しました。問2が0.3上昇しており、昨年は欠席が多い学生が追再試験を受けていた可能性があります。また、昨年に引き続き問1と問4が低く、全体に予習・復習ができていないようです。本講義は、医用機器の基礎と基礎医学・臨床医学への応用について、6名の教員がオムニバス形式に行っています。教員が連携して、宿題などを課すことで予習・復習の習慣を促していきたいと考えています。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：108 回収数：102 回収率：94.4%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.7	4.3	3.6	3.8	3.9	4.0	4.2

**\*評価に対するコメント**

医学英語Ⅲ担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組む e-learning コースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。多くの建設的なフィードバックをありがとうございました。今後の授業計画に反映していきたいと思えます。積極的な授業参加を促すよう、来年度も工夫したいと思います。

科目名：消化器医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：100 回収率：91.7%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.0	3.7	2.9	3.3	3.4	3.8	3.7

**\*評価に対するコメント**

消化器医学担当教員

今年度の学生評価の点数は、全般的に低くなっており他教科との比較・検討が必要である。授業の毎回出席したかの質問には高い点数がついており、出席はするが予習や復習はしないというのは、現在の風潮なのか、正直な学生が多くなってということなのであるだろうか？例年と比べて特徴的なのは、問5の到達目標の達成と問6難易度についての点数が低かったことであり、テストを含めて難易度が上がっていることがこのような結果に結びついているものと反省し、わかりやすい授業や配付資料、答えやすいテストを心がけていきたい。

科目名：心肺病態制御医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：109 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.0	3.9	3.2	3.7	3.6	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

心肺病態制御医学担当教員

平成29年度心肺病態制御医学の講義企画に対する学生評価であるが、問8のこの科目は全体として満足できるものであったかという問いに対して、5段階評価で3.9であり、未だ改善の余地がある。学生の立場からすれば、病態の本質を学びつつもCBT、あるいはその先の国家試験を見据えた講義を期待するところであると思われるので、そういった要望も取り入れていく必要があるのかもしれない。

科目名：衛生・公衆衛生（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：128 配付数：126 回収数：36 回収率：28.6%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.4	4.0	3.6	4.0	4.2	3.9	4.2

**\*評価に対するコメント**

衛生・公衆衛生担当教員

毎年予習・復習をする人は少ないようですが、卒後臨床研修を始めるにあたり、単に臨床能力を前提とするだけでなく、衛生・公衆衛生学領域で学ぶ内容である、医療制度、地域保健、政府統計資料からみる現状などを理解することも求められています。今後、この領域についても興味をもって、知識をupdateして行ってください。

科目名：整形外科学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：115 回収率：89.8%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.1	3.9	3.3	3.9	4.1	4.1	4.2

**\*評価に対するコメント**

整形外科学担当教員

本講は整形外科の疾患や外傷に関する病態や治療法の基本的な事項を学ぶことを目的とする。学生からは、「興味深い聞きやすい授業であった」という評価があった反面、「解剖の復があるとより理解しやすいと思う」という意見もあった。学生の学習意欲をより向上させる方法について、今後再度検討を要する。

科目名：麻酔・集中治療学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：108 回収率：84.4%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.0	3.8	3.5	3.8	3.7	3.9	3.9

**\*評価に対するコメント**

麻酔・集中治療学担当教員

麻酔・集中治療学は、麻酔・蘇生学及び、救急医学の二講座の領域を含み、主に急性期の侵襲制御に関する内容から構成されている。講義スライドや資料をデジタル化して5年が経過し、概ね順調に経過している印象である。今後も資料・講義内容を検討し、受講生の理解・知識獲得に役立てられるものになるように改善に取り組んでいきたい。

科目名：腫瘍学2（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：102 回収率：79.7%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	3.9	3.7	3.4	3.5	3.4	3.5	3.6

**\*評価に対するコメント**

腫瘍学2担当教員

腫瘍学I（3年後期）では腫瘍学の総論、基礎医学的観点からの講義であり、この後を受けて腫瘍学IIがより臨床的な観点からの講義で構成されている。今後の学習意欲を増すか？全体として満足できるか？の項目は3.5 3.6であり、昨年の3.9 3.9より低下しており改善の余地がありそうである。難易度が適切か？は3.4と低く、各講義がより専門性の高いものになっている可能性がある。これはある意味、有意義であるが学年の進行に合わせることも念頭において、今後の講義を構成することも考慮する。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：105 回収率：82.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	3.9	3.9	3.5	3.7	3.6	3.8	3.8

**\*評価に対するコメント**

臨床放射線学担当教員

おおむね良好な評価でしたが、より良い内容になるよう講義内で工夫していきます。レジュメについて、背景を白抜けにして書き込みやすくしてほしいという要望がありました。講義スライドをグレースケール（白抜け）で印刷すると画像が変化したり見にくくなる場合にカラー印刷にしていますが、今後はできる限り希望に添えるよう工夫します。

科目名：生殖発達医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：111 回収率：86.7%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.0	3.8	3.5	3.7	3.7	3.9	3.9

**\*評価に対するコメント**

生殖発達医学担当教員

生殖発達医学の講義企画に「全体として満足できるかと」言う質問に対して111人中69人の学生が4あるいは5と回答してくれておりました。1あるいは2という回答は3例のみでした。評価は1～5の5段階ですから、この結果には、満足しています。一部にコマ数が多いという感想もありましたが、膨大な医学情報を伝える為には、仕方のない事です。来年度も高い評価を得られる授業を展開したいと考えています。

科目名：法医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：128 配付数：124 回収数：113 回収率：91.1%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.1	4.1	3.7	4.0	4.2	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

法医学担当教員

法医学講義は、異状死体の死因究明を的確に遂行することができる臨床医になるために、必要な知識を学ぶ機会である。授業評価の評点は、平均4点以上であり、学生サイドからの評価は好評であったと言える。予習帳を配布しているのでもう少し予習してくれることを希望する。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.9	3.8	2.9	3.6	4.1	4.0	4.3

**\*評価に対するコメント**

看護社会論担当教員

本科目は、現代社会と看護師に関する知識を幅広く学ぶことを目的としています。多くの履修者が科目の難易度は適切だと感じていたようです。また、今後の学習意欲を喚起させ、満足できる内容だったようです。しかし、学生評価には、予習や復習の内容を具体的に指示をしなかったことも表れているようです。授業の時間割などの制限はありますが、来年度は、授業時間外の学習も指導したいと考えています。

科目名：発達心理学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：52 回収数：52 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.8	4.6	3.6	3.7	3.3	3.8	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

発達心理学担当教員

学生自身についての評価では、「出席」、「努力」、「復習」が4.6, 3.6, 3.7と高く、「予習」の評価は1.8と低かった。それ故、今後は学生に対する予習の指導が必要であると思われる。一方、達成と難易度については3.3, 3.8, 意欲と全体の満足度については3.8, 4.0となり、ある程度高い評価が得られた。これは、講義の前半に発達心理学を理解するために必要な基礎心理学の実習を導入したこと、実験やビデオを多用したこと、講義内容のプリントを毎回配布したことによると思われる。今後も講義内容の改良を続け、より高い評価を目指す必要があるだろう。

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.5	3.7	3.4	3.1	2.7	3.0	3.3

**\*評価に対するコメント**

看護化学担当教員

看護師に必要不可欠な化学を教授している。上級学年の科目の基礎でもある。試験の問題は標準的で、“正しい”努力をした者は相応の結果を得ることができる。化学は（高校までとは違って）暗記科目ではなく、基本原理を理解した上で、それを展開することによって全体が理解できると指導している。これを理解せず、甘く見て努力を惜しむと失敗する。化学の知識の不足が、医療技術の低下や、ときには医療事故の原因になっていることを肝に銘じて勉強すべき。根拠のない甘えや油断をくれぐれもしないよう。成績は前期期末試験終了後に確定し、その後変更することはないので誤解のないように。普通に正しい努力をして下さい。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：52 回収数：52 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.0	4.6	3.7	2.9	3.8	3.9	3.7	4.5

**\*評価に対するコメント**

情報リテラシー担当教員

This subject is a lesson that does not require preparation or review. Therefore, the answers to questions 1 and 4 may be low evaluation values. Students who attended the classes were very enthusiastic. Many comments on "I enjoyed my classes" were reported. The process of learning and acquiring new things and growing should be fun. According to a recent survey, lowering the students' ability of information literacy using PCs is a problem. We maintain a very high level in our university. In the next year, I would like to further improve it with the aim of achieving the target (Q5).

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：56 回収率：91.8%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.6	3.9	2.8	3.7	4.0	3.9	4.2

**\*評価に対するコメント**

医療史・医療哲学担当教員

「なぜ人は人をケアするのか」「病気とはなにか」「自律の尊重とはなにか」など、看護に底流する哲学的課題について、学生自らが考える形式の講義を展開した。発言の回数など積極性も踏まえて成績判定をした。難易度の高さを危惧していたが、評価やレポートを見ると、興味を持って参加しており、考えを深めることができているようである。看護という職をする以上、生涯通じて必要となるテーマであり、繰り返し思考を深めて自分のものにしてほしい。

科目名：看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：58 回収率：95.1%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.7	5.0	4.7	4.8	4.4	4.4	4.7	4.8

**\*評価に対するコメント**

看護学概論担当教員

ほぼ毎回の事前・事後学習課題を課し、課題に基づくバズセッションや発表など、双方向的な授業となるように運営しました。満足度は4.8、到達目的達成度が4.5という結果は、学生の皆さん自身の取り組みの成果と考えています。今後の学習意欲も4.7と高く、広く看護とは何かを考える科目として成果があったと思っています。これからの看護学の学習の土台として、本科目が皆さんの基盤となることを願います。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：49 回収率：81.7%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.2	3.9	3.2	3.6	3.8	4.0	4.1

**\*評価に対するコメント**

生命科学担当教員

昨年度と比べ、問1～8が0.1～0.4の幅で全てupした。これは、講義に対する教員の働きかけに改善があったことに加え、学生の取り組みにも積極性が増したと考えられる。ただ、個別のコメントには、高校生物の非選択者に難しい内容があったという指摘がなされた。今後、これらの学生に対するサポート体制に創意工夫を重ねたいと考えている。

科目名：看護基礎物理（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：56 回収率：91.8%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.5	4.0	3.3	3.6	3.7	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

看護基礎物理担当教員

総合評価は昨年より0.5上昇し4でした。項目別でも問7(学習意欲)の項目が3.8と昨年より0.5上昇しました。また、問4(復習)の項目も昨年より0.5上昇し3.3でした。問1(予習)の評価もこれまでで最高の評価でした。学生の努力(予習&復習)が学習意欲を増進させ、結果的に総合評価の上昇へと繋がったものと分析しています。講義中に学生に質問するなど、学習意欲を引き出そうとした試みも功を奏したのかもしれませんが。教員も学生の頑張りに答えられるよう、なお一層の講義改善に努める所存です。

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：43 回収率：72.9%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.7	3.5	2.8	3.8	3.5	3.5	4.0

**\*評価に対するコメント**

統計学担当教員

社会人(医療人)としての常識程度の統計学の基本の習得を目的としていますが、計算、数字に対しての既得意識に個人差があります。筆記試験7割、実習レポート3割で成績を評価していますが、今年度は昨年度に比べて欠席も少なく、全体的により評価をいただきました。本講義を除けば、量的記述の基礎体力となる、計算、数字に触れる機会が看護学科ではなくなってしまいますので、責任をもって取り組みたいと思います。授業中、フォローアップでの意見も参考にし、質を高めていきます。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科目名：精神看護学I（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：44 回収数：27 回収率：61.4%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.5	3.6	2.8	3.3	3.7	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

精神看護学I担当教員

講義では精神看護が広く日常にかかわっていることについて理解を深め、様々な社会問題を取り上げ展開しています。1コマにおける内容が多いという意見もあったので、もう少し学生自身が調べ学べるような機会を提供できるよう来年度は心がけていきたいと考えています。一方で多くの学生が興味をもって精神看護を考えてくれたことに関しては嬉しく思います。



科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.9	4.9	4.7	4.7	3.8	3.7	4.4	4.5

**\*評価に対するコメント**

看護過程論担当教員

科目全体の満足度は4.5と高いものでした。学習目的の達成度は3.8と低めですが、この科目での学びは看護実践（基礎看護学実習Ⅱ）で実感できるものと期待しています。毎回の事前学習、夏休み前後および最終課題提出と非常に学習課題の多い科目ではありますが、各自が真摯に取り組んでいたと思います。自由記載ではグループワークによる学びの深まり、教員の助言を有効に活用することの意義が多く述べられていました。限られた授業時間をどのように活用するかについては次年度に向けての検討課題とします。

科目名：疫学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：54 回収率：91.5%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.2	3.2	2.6	3.4	3.2	3.6	3.8

**\*評価に対するコメント**

疫学Ⅰ担当教員

疫学は、看護師国家試験への出題頻度は少ないのですが、卒業後の看護研究を行うための基礎知識として重要な科目です。本科目は講義のみで内容を把握するのが難しいので、予習や復習により予め理解を高めておく必要がありますが、励行している学生は少数だったようです。講義は疫学を専門とする医学科の講師陣がオムニバス方式で行っています。今後は講義の要点をさらに分かり易く解説するよう努め、学生に対しても予習復習の徹底を促すように声掛けを行うようにしたいと思います。

科目名：保健統計Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：55 回収率：93.2%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.1	3.2	2.7	3.2	2.9	3.3	3.4

**\*評価に対するコメント**

保健統計Ⅰ担当教員

保健統計学は、疫学とともに保健師にとっては必須科目ですが、看護師に対しても卒後の看護研究に重要です。講義内容は、範囲が広く完全な理解は難しいと思いますが、重要な事は統計処理の使い分けを正しくできるようになることです。本科目も疫学と同様に予習・復習は必須です。講師については疫学と同様に医学科の先生を含めたオムニバス方式で行っています。講義の方法や学生への要望についても疫学と同様です。

科目名：リハビリテーション看護学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.5	3.8	3.4	3.9	4.0	4.1	4.2

**\*評価に対するコメント**

リハビリテーション看護学担当教員

科目全体の満足度が高いのは、リハビリテーション科の医師やセラピスト、脳卒中リハビリテーション認定看護師に講義をしてもらい多角的・専門的な学習ができた成果だと思う。担当の諸先生に感謝する。予習・復習に関する点数が低かったのも、自発的な学習を促すような工夫をしたい。

科目名：病態学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.4	3.9	3.2	3.8	4.1	4.5	4.5

**\*評価に対するコメント**

病態学担当教員

昨年同様、講義⇒確認テスト⇒確認テストのレビューという流れで展開しました。講義内容をシェイプアップ、確認テストも更新し、より理解しやすいように修正しました。また病理学総論終了後の中間試験も施行しました。評価ポイントは例年通りで、ほぼ適切な企画であったように思われます。来年度も、より効率よく学べて、達成感の得られるような内容を心掛けて、講義を企画したいと思います。最後に暖かいコメントをくれた学生さん、ありがとうございます。

科目名：在宅看護学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：56 回収率：90.3%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.7	4.0	3.7	3.7	3.8	3.9	3.9

**\*評価に対するコメント**

在宅看護学担当教員

在宅看護学では、事例を通して看護や在宅生活で利用できる制度などを紹介しています。法改正などもありますので、常に新しい情報を皆さんにお伝えできるよう授業を組み立てていきたいと思っています。次年度も現場で活躍されている方を講師にお呼びし、皆さんに在宅看護の実際について学んでいただきたいと考えています。3年生の皆さんは、大変まじめに授業に参加していただいたと思っています。臨地実習に向けて学びを深めて頂ければ幸いです。

科目名：英語文献講読（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：61 回収数：28 回収率：45.9%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.1	4.7	3.8	3.7	3.7	3.3	3.0	3.0

**\*評価に対するコメント**

英語文献講読担当教員

例年通り自習に多くの時間をかけて、看護・保健・医療の英文読解に挑戦されていることがわかります。その成果は、身近には実感したい点があるようです。学生時代に広く英語文献になじむことが看護・保健・医療の分野でエビデンスベースドナーシングを実践できる力を養い、文化的差異を理解できる力となります。今後はより実践に役立つ内容を工夫して各担当者の講義の魅力を高めていきたいと思っています。

科目名：がん看護学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：53 回収率：85.5%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.5	3.9	3.6	3.4	3.6	3.6	3.3

**\*評価に対するコメント**

がん看護学担当教員

学生の皆さんは、がん看護に関する関心を年々高めて受講していることを再確認できました。また、受講後にはがん患者さんとその家族の理解がポジティブに変化し、支援に対する意欲を高めている大きな成果を実感しています。今後は、若年がん患者などの看護といった皆さんの関心にこたえられる講義内容について魅力ある講義に努めていきたいと思っています。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：61 回収数：55 回収率：90.2%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.5	4.2	4.0	3.9	4.1	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

成人看護学Ⅱ担当教員

周手術期看護についての予習目的で学生に出している事前課題を全学生が期限までに提出していたにも関わらず、講義の予習に関する項目である問1が「3.5」と最も低かったことは非常に残念である。この結果を受け、来年度は講義のオリエンテーション時の課題の説明をより詳細に行い、学生が事前課題の出されている意図を十分に理解して取り組めるようにする必要がある。

科目名：高齢者看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：62 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.5	4.0	3.9	3.9	4.1	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

高齢者看護学Ⅱ担当教員

科目全体の満足度は低くはないが、到達目標の達成、予習・復習、学習意欲に関する点はやや低い。講義時間の最後に自分で講義内容のまとめをする時間を取り入れた回を設けたが、今後はその回数を増やすなどして達成度を高める工夫をしたい。意欲の向上については、引き続きアクティブラーニングの手法を取り入れ主体的な学習を促すようにしたい。

科目名：保健医療福祉システム論（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：61 回収率：98.4%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.0	3.5	3.1	3.0	3.0	2.5	2.6

**\*評価に対するコメント**

保健医療福祉システム論担当教員

この科目は医療を中心に学ばれている皆さんが、保健と福祉の役割を理解し、保健医療福祉を有機的につなげる力を培っていただきたく立ち上げました。法律や経済・福祉を看護に結びつけながら学び取るには苦労があったようです。学習意欲、満足度は低い評価でしたが、広い視野で社会を見つめ、人々の生活を看護の立場から支えるためにこの科目が活かされるよう今後も内容について吟味していきます。

科目名：国際保健看護論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：42 回収数：10 回収率：23.8%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.8	3.8	3.3	3.2	3.4	3.4	3.3

**\*評価に対するコメント**

国際保健看護論担当教員

看護は「人間を対象にしている」ので、おのずと国際的な視点が求められる学問です。このことを国際保健看護論をとおして、国内外へと視野を広げ多角的にわかりやすく看護の本質につて深められるよう、努力してゆきたいと思います。

科目名：医療安全論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：33 回収率：61.1%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.2	3.8	2.7	3.4	3.9	3.7	3.9

**\*評価に対するコメント**

医療安全論担当教員

・成績評価や学生評価等から勘案すると、科目全体の到達目標はある程度、達成できたと考える。また、科目全体の難易度も適当と判断する。・医療安全論の講義は3人の講師が担当しており、今年度からは臨床の医療安全管理者も加わったため、より実践的な内容になったと考える。・学生の予習・復習に関する自己評価が低かったことから、今後は課題を与えるなどの工夫が必要である。

## 実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされてきましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされてきましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う                   (非常に良い)  
④ やや思う                       (良い)  
③ どちらとも言えない       (普通)  
② あまりそう思わない       (あまり良くない)  
① 全くそう思わない       (良くない)

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：100 回収率：89.3%

### \*評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.0	4.8	4.6	4.2	4.7	4.5	4.5	4.3	4.2	4.5	4.2	4.2	3.7	4.0	4.5	4.6	4.5	4.4

### \*評価に対するコメント

基礎生物学実習担当教員

どの項目も昨年とほぼ同程度の評価をいただきました。本年度は学生のアクティブラーニングを促すために、顕微鏡を使用する一部の実習テーマでグループ学習と発表会を実施しました。学生の反応は概ね良好でしたが、今後も同じ形式で継続するかどうかは未定です。一方で、問13「課された提出物（レポートなど）の量や内容が適切であったか」は、昨年と同様に低めの評価でした。レポートは必要最低限の量と内容を課しており、提出期限も学生の時間割や行事の日程などを考慮して設定しております。ただし、実習内容のスケジュールがなるべく学生にとってタイトにならないような工夫が必要かもしれません。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：111 回収数：106 回収率：95.5%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.8	4.5	4.2	4.4	4.2	4.2	3.9	4.1	4.3	3.8	3.7	3.3	3.5	4.2	4.3	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

医用物理学実習担当教員

総合評価は3.9であった。A、B組で例年通り同じ内容の実習を行っているにもかかわらずA組とB組の総合評価に0.4の差があった。項目ごとに見ると、問12(難易度)、問13(課題量)、問14(意欲)でA組とB組の差が顕著であり、最大で0.7の差が生じていた。時間割上、A組とB組で実習のレポート提出期限に2週間程度の差があった。このため定期試験等と提出期限が重なってしまい、負担感の差が生じたのかもしれない。今後の検討課題としたい。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：46 回収率：39.0%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.9	4.3	4.1	4.4	4.0	4.3	3.7	4.0	4.3	3.9	3.7	3.4	3.5	3.7	3.9	4.3	4.0

＊評価に対するコメント

生化学実習担当教員

先ず、30件余りもの建設的なご指摘に深謝致します。内訳は、実習のスケジュールについて大変だった、きつい、余裕がないというもので7件、開始時の説明スライドを印刷して配布、有害物取り扱い時のゴム手の徹底、予習とチェックリストの重複がいずれも2件ずつ、その他、実習書の記載の改善点など多数の有益なご指摘を頂いています。予算の枠という制限はありますが、ご指摘を生かして最善の実習を目指して改善して参りたいと思います。また、大変だったが勉強になって楽しめたというご指摘もあり、それなりに充実した時間であったことが、問18の4.0という得点からも伺え、スタッフ一同嬉しく思っています。

科目名：形態学実習Ⅰ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：124 配付数：121 回収数：87 回収率：71.9%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.9	4.7	4.2	4.2	4.4	3.6	3.9	3.8	4.2	4.1	3.8	3.7	3.7	3.7	4.0	4.1	3.5	3.5

＊評価に対するコメント

形態学実習Ⅰ担当教員

組織学実習時間が長い、などの意見を多数いただいた。本実習では、各回用意している大切な組織切片を、じっくりと顕微鏡観察して貰いたいという気持ちで、余裕ある実習時間を設定している。また、今年度は、組織学実習の内容を大きく変更した。特に、「総論」のコマを増やすことで、組織学の基礎的知識の徹底を図った。そのための新たな切片作製など、十分に実習準備に備えていたが、私たちの至らなかった所も含め、来年度の実習を改善していきたい。

科目名：免疫学実習（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：86 回収率：72.9%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.9	4.4	4.1	4.5	4.3	4.4	4.3	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.3

＊評価に対するコメント

免疫学実習担当教員

免疫学実習は専門の講座がないため学内の多くの講座の先生方の協力によって行われています。多岐に渡るテーマを取り上げていますが、総合的には4.3の評価を頂いており、動物(マウス)を使用した実習も企画されていますし、一応合格点ではないかと思いましたが。グループの人数に関して多すぎるかもしれませんが、講座持ち出しの費用も多く、教員の数の限界もあります。ご理解頂ければと考えます。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：110 配付数：109 回収数：96 回収率：88.1%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.7	4.8	4.5	4.5	4.8	4.6	4.7	4.7	4.6	4.7	4.4	4.6	4.6	4.5	4.6	4.8	4.7	4.7

**\*評価に対するコメント**

微生物学実習担当教員

本実習では、これまででも、実習オリエンテーションで学生諸君に「実習内容の事前確認」をするように指導してきましたが、これを確実に実践してもらうために始めた「予習レポート提出」方式が6年目となりました。その結果、ほとんど全ての学生は予習してくるようになりました。また、昨年よりもさらに実習手技等に関する説明を短縮しましたが、短くなったことで、説明がわかりにくいという問題もなかったため、来年からも同じレベルでの説明で実習を行おうと考えています。本年度は、時間を持て余して、集中できていない学生がほとんどおらず、実習自体はスムーズに行われた印象があります。その結果として、実習全体の満足度は昨年よりも高い4.7と高い評価をされたのかもしれませんが、学生諸君と教室員の協力に感謝致します。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：109 回収率：100.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.7	4.3	4.1	4.4	3.9	4.2	4.2	4.2	4.2	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.2	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

寄生虫学実習担当教員

寄生虫感染症に対する適切な診断・治療を行うには、寄生虫種の同定が必要です。従って、本実習では、寄生虫標本や病理標本の肉眼と光学顕微鏡を用いた形態観察を通し、寄生虫の形態学的特徴や病原性発現を理解してもらうことを目標としています。今年度の実習全体の満足度は4.1と高く、適切な質と量であったと思われます。今後も、学生の知識欲を高めるような実習にしたいと考えています。

科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：107 回収数：67 回収率：62.6%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.6	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.5	4.5	4.5	4.4

**\*評価に対するコメント**

薬理学実習担当教員

薬理学実習は、生体に投与した薬物が効いていることの実体験、さらには、得られた結果から妥当な薬理作用を考察し、講義で得た知識を定着させることを目的としている。ほんの少しの薬物しか用いることができなかったが、この実習が、諸君の知識定着の一助となっていれば幸いである。薬をいかにうまく用いるかは医師の腕にかかっている。今一度、薬理学の復習をし、自分の理解に間違いがないか確認して頂きたい。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：82 回収率：75.2%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.7	4.5	4.0	4.2	4.0	4.2	4.0	4.2	4.0	3.9	3.5	3.5	3.8	4.2	4.3	4.1	3.9

**\*評価に対するコメント**

病理学実習担当教員

今年度は、病理学が独立科目として開講された後の初めての实習となった。腫瘍病理分野も免疫病理分野も基本的にこれまでの内容を踏襲した。腫瘍病理分野では、バーチャル顕微鏡システムを積極的に使って、多数の関連標本を供覧するよう努めた。学生の多くはPCやタブレットを持参し、バーチャル顕微鏡を有効に活用している様子であった。しかし、従来の顕微鏡を使わない学生が散見されるようになったことは少々気がかりである。実習中の学生の印象は全体に淡泊であった。実際の病理標本の中には説明したこと以外にも興味深いことや不思議なことがたくさん含まれているはずであり、もう少し深く追求する態度で実習に臨んでくれることを願っている。実習全体に対する学生のコメントには肯定的なものも多く、安心したが、個々の具体的要望に関しては来年度は改善したい。「学生の身になって考えてみる」と大書した1人の学生に対しては、どのような理由でそのようなコメントをしたのかを今からでも良いから私にきちんと説明しに来て欲しい、と伝えたい。

科目名：生理学実習・演習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：110 配付数：110 回収数：101 回収率：91.8%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.7	4.6	4.2	4.4	4.2	4.2	4.0	4.3	4.3	4.1	3.9	3.1	3.9	3.8	4.0	3.8	3.9

**\*評価に対するコメント**

生理学実習・演習担当教員

例年と比べて課されたレポートの量に対する評価は3.1と低かった。自由記載の欄でも、レポートの量が多いと感じているとともにレポート提出期限が短いと感じている学生が多いことがわかる。また、同様の形式で実習を開始して以来、年を経るとともにその要望が多くなっている。しかしながら、限られた時間の中で一つ一つの実習結果を適切にまとめる能力を身につけることは、レポートの作成をより負担に感じる今こそより意義深いと考えている。また、実習が楽しかったとの6件の評価が自由記載されていたことは、来年度の実習をよりよくする励みとなった。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	5.0	4.8	4.9	4.7	4.6	4.8	4.5	4.8	4.9	4.4	4.6	4.0	4.7	4.8	4.8	4.5	4.7

**\*評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅰ担当教員

授業評価から1年生の皆さんが真摯に学習に取り組んだことが伝わってきました。その他の質問項目も高得点でありますが、技術が一朝一夕に身につくことは難しいと思いますので、問11技術を十分に習得できたかの得点が高いことは少々気になります。後期の基礎看護技術学Ⅱもこの評価が継続するよう取り組んでいきたいと思っています。



科目名：基礎看護技術学Ⅲ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：37 回収率：62.7%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	5.0	4.8	4.7	4.5	4.2	4.5	4.0	4.5	4.4	4.1	4.1	3.3	4.1	4.3	4.5	4.1	4.4

**\*評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅲ担当教員

課題の量・内容に関する評価は3.3でしたが、予習(評価4.6)、出席(評価5.0)、積極的な参加(評価4.8)という評価の通り、皆さんは課題の必要性を理解し、とても熱心にこの科目に取り組んでいました。自由記載に注射法の演習時間について意見がありました。本科目では実習室アワーを数回設けておりますので、その時間もおおいに活用し、修得を目指していただきたいと考えます。今年度フィジカルアセスメントの演習方法を変更しましたが、効果的だったという意見と改善すべき内容の意見がありましたので、検討していきます。

科目名：実践看護技術学Ⅰ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：50 回収率：80.6%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.8	4.6	4.3	4.4	3.8	4.3	3.8	4.2	4.2	4.1	4.1	3.9	4.1	3.9	4.4	4.5	4.0

**\*評価に対するコメント**

実践看護技術学Ⅰ担当教員

実践看護技術学Ⅰの実技試験は、グループの代表者1名が実技試験を行います。実技試験実施者はくじ引きで決まりますので、誰が実技試験を行うか試験直前までわかりません。この方法で試験を行う意味は、①グループ全体で練習を行うこと、すなわち、チーム力を高めること②誰が当たってもよいように全員が練習をするという2つの意味があります。他人が行った実技試験の結果が、自分の成績になるので不満であるというコメントがありました。しかし、カバーしあうということも看護の中では大変重要なのです。いろいろな意見はありますが、3年生の皆さんは大変まじめに取り組んでいたと考えています。頂いたコメントは、次年度に向けて吟味したいと考えています。

科目名：高齢者看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：43 回収率：69.4%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.9	4.6	4.4	4.3	4.3	4.1	4.0	4.2	4.4	4.2	4.3	4.3	4.2	4.2	4.5	4.4	4.3

**\*評価に対するコメント**

高齢者看護学演習担当教員

全体の満足度を示す問18は4.3、他項目に関しても4.0以上であり概ね高かったことから、ある一定の学びを得られたと考える。問7・8、教員の指導能力と教員間の連携に関しては他と比較して4.0～4.1と低かった。状況把握に努めたいと考える。その他、提案や感想のコメントが数件あったが、大まかには技術試験に関することであった。それらの意見を参考に、説明内容や方法を検討していきたい。

科目名：小児看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：58 回収率：93.5%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.9	4.4	4.4	4.7	4.2	3.7	3.6	4.3	4.4	4.1	4.2	4.4	4.4	4.1	4.5	4.4	4.4

**\*評価に対するコメント**

小児看護学演習担当教員

評価点の平均は4.0前後であり、学生にとって概ね満足できる内容であったと考えます。事前配付資料は演習を勧めらうえで役立っていた(問10)ようですが、予習(問1)は他の項目と比較し低い結果となりました。事前配布資料が予習に活用されていない現状は、学生の学ぶ機会、意欲を奪っている可能性もあります。まずは教員の指導能力を高め、学生が事前に学んできたことを中心に授業を展開し、今後の授業改善に努めたいと考えます。

科目名：成人看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：53 回収率：84.1%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.8	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7	4.6	4.6	4.3	4.5	4.3	4.5	4.7	4.7	4.7	4.6

**\*評価に対するコメント**

成人看護学演習担当教員

成人看護学演習は第3学年の前期に履修し、後期から開始される成人看護学実習で想定される場面を設定し、より臨床に近い内容で演習を行う科目である。急性期・慢性期にある患者事例を設定し必要な看護技術を修得する。評点は全体的に高く、学生の満足度は高かったと言える。今年も問11の技術を十分に修得できたかに対する評点が最も低いが、学生は技術修得が演習の中だけでは困難であることを自覚できているのだと考えられた。

科目名：精神看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：59 回収数：28 回収率：47.5%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.8	4.5	4.4	4.4	4.3	4.2	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4

**\*評価に対するコメント**

精神看護学演習担当教員

今年度はミニシンポジウムの評価がとても高く、演習内のイメージが統合できたり、実習にも対象者の体験は活かせるという意見が数多くありました。ただ、グループ発表においては、発表グループの声が室内に反射して響き、聴き取り難かったという指摘もあり、来年度はこのような物理的環境にも対策を考えていきます。

科目名：母性看護学演習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：23 回収率：42.6%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	5.0	4.7	4.3	4.4	4.4	4.5	3.9	4.2	4.3	3.7	3.6	3.4	4.0	4.2	4.3	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

母性看護学演習担当教員

回収率42.6%で昨年より9ポイント低下した。しかし、全体の平均は4.2と昨年より上昇し、満足も4.0で昨年と同じであった。昨年、要望として挙げた参考資料・看護過程の資料の事前配布を行った。その結果、学生全員が事前学習を行って演習に取り組み、主体性を発揮することで「習得できた」が上昇したと考える。「課題が多い」3.4と昨年の3.1より上昇した。来年度も効果的に演習を進められるよう内容の見直しを考えている。

## 臨地看護実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習 I (看護学科第 1 学年前期／必修)

履修者数：61 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

### \*評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.1	4.5	4.0	4.6	4.5	4.3	4.4	4.4	4.6	4.6	4.5

### \*評価に対するコメント

基礎看護学実習 I 担当教員

実習の満足度は 4.5、看護職者を目指す意欲は 4.6 の評価でした。実習ならではの学びが得られた結果と考えます。実習前に病棟および教員間で打ち合わせを重ねておりますが、自由記載には着眼点や指導の差があったというものがありません。その時に伝えていただいたり、具体的に記載してもらえると改善につながるの、是非ご意見をお聞きしたいと考えます。実習ガイダンスおよび実習時期についてより良い実習にするための具体的な意見がありましたので可能な範囲で検討してきます。

科目名：成人看護学実習 I (看護学科第 3 学年後期～第 4 学年前期／必修)

履修者数：54 配付数：54 回収数：13 回収率：24.1%

### \*評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.7	4.3	4.5	4.7	4.5	4.6	4.5	4.8	4.8	4.8	4.7

### \*評価に対するコメント

成人看護学実習 I 担当教員

成人看護学実習 I は、第 3 学年後期から第 4 学年前期にかけて行う慢性期看護の実習である。場所は内科病棟 (6 階西と 9 階西) にて、受け持ち患者の看護過程を展開する。問 2、問 5、問 9、問 10、問 11、問 12 は得点が高く、学生は、臨床実習における環境に対しての満足度が高かったと言える。実習病棟は病院内では 1・2 番に稼働率の高い病棟である。そのような中で学生が実習環境を高評価しており、師長をはじめ病棟のスタッフの皆様の熱心な指導体制に感謝する。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：22 回収率：40.7%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.5	4.6	4.4	4.5	4.5	4.4	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5

**\*評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅱ担当教員

回収率が40%と低かったことは残念ですが、項目すべてが4.4～4.6であったことから、学生の実習企画に対する満足度は高く、この実習が学生の看護職を目指す意欲を高めることにつながったとの評価はできると考えます。実習にご協力頂いている関係領域の皆様に深く感謝いたします。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：18 回収率：33.3%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.6	4.6	4.8	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4	4.4	4.5

**\*評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅲ担当教員

成人看護学実習Ⅲは、第3学年後期から第4学年前期にかけて行う外来機能の実習である。場所は診療外来や看護外来、点滴センターや内視鏡室、入退院センターや地域連携室など多岐にわたる。実習形態は主に見学実習だが、問2、問3の得点が高く、学生は、学内での講義と臨床場面を統合することが出来ていたと言える。指導看護師の専門的な知識を基盤とした懇切丁寧な関わりの結果であると考えられる。外来の各部門の師長をはじめ認定看護師や指導看護師に感謝する。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：13 回収率：24.1%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.8	4.0	4.3	4.4	4.1	4.0	4.3	3.9	4.3	4.2	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

小児看護学実習Ⅰ担当教員

評価は4.0前後であり、学生にとって概ね満足できる実習であったと考えます。「問4. 記録・提出物の量の適切性」は4.4でした。この実習は保育園で実施します。見学や体験が中心となるため、学生の主体的な取り組みが学習成果に直結します。提出物の量について、何を以て「適切」と評価されているかは不明ですが、学生の学習量と学習成果が一致するように、今後も教育を充実させたいと考えます。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：12 回収率：22.2%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	3.8	4.3	4.3	4.0	3.8	3.8	4.3	3.9	4.3	4.3	4.1

**\*評価に対するコメント**

小児看護学実習Ⅱ担当教員

評価は4.0前後であり、概ね満足できた実習と考えます。「問2. 教員と指導者の連携」、「問6. 具体的でわかりやすい説明」は3.8でした。本実習は病棟1週間、外来1週間で構成され、病気の子どもを対象とするのも学生には初めての事です。そのため、緊張が解けないまま実習が進んでいるとも考えられます。学生が集中して子どもの看護を学べるように、教員と指導者間の連絡・報告を密にして、きめ細やかな教育を行いたいと考えます。

科目名：高齢者看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：38 回収率：70.4%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.6	3.5	4.1	4.4	4.2	3.9	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	4.1

**\*評価に対するコメント**

高齢者看護学実習担当教員

問1の実習ガイダンス3.6、問2の実習指導者との連携に関するもの3.7と他の項目と比べて低かった。ガイダンス資料の見直しを昨年行ったが、それを説明する工夫が必要である。回収率は70.4%であり、以前よりも高くなっている。意見も多く書かれていたことから、関心の高さがうかがえる。書かれた意見は実習環境の改善を求める内容もあったが、高齢者看護学として方向性をしっかりと定めていきたい。

科目名：精神看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：15 回収率：27.8%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	3.9	4.5	4.9	4.5	4.5	4.4	4.2	4.5	4.5	4.5	4.6

**\*評価に対するコメント**

精神看護学実習担当教員

高い評価はしてくれていますが、昨年度よりも評価が下がったことが残念です。その要因として受け持ち患者の病態理解が難しく、2週間という限られた中で看護の方向性がなかなか見いだせずにいた学生が存在したと振り返ります。もう少し早めに臨床指導者と調整するなど、看護過程の指導体制を再検討していきたいと考えています。

科目名：母性看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：20 回収率：37.0%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	4.1	4.1	3.5	4.4	4.2	4.0	3.8	4.3	4.2	4.1	4.3

**\*評価に対するコメント**

母性看護学実習担当教員

回収率3割であり、学生の3分の1の意見として受け止める。平均4.1で昨年とほぼ同じであった。しかし、12問中9問が0.1～0.3ポイント減少している。これは母性看護学の特徴でもある受け持ち対象が当日に決定すること、看護過程の展開が早い事によるものと考えられる。来年度は学生の精神的・身体的負担感が少なくなるよう病棟・学生との調整を円滑にし、学生が主体性を発揮できるよう、意見を反映させたいと考えている。

科目名：在宅看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：23 回収率：42.6%

**\*評価結果(平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.2	3.6	4.2	4.4	4.1	3.8	4.3	4.1	4.3	4.1	4.3	4.3

**\*評価に対するコメント**

在宅看護学実習担当教員

在宅看護学実習では、市内4か所のステーションに実習に行ってもらっています。大学病院外での実習になるため、不安は色々あると思います。分からないこと、不安なことはそのままにせずどんどん質問してください。大変暖かく、皆さんを受け入れてくれているステーションばかりです。? 皆さんには、在宅の場の特性など様々な学びがあると思います。楽しんで実習を行ってもらえればと思っています。

## 大学の森みどりの保育園で「ぬいぐるみ病院」を実施

12月19日(火)に「旭川医科大学大学の森みどりの保育園」において、旭川医大IFMSAの学生たちによる「ぬいぐるみ病院」が行われました。今年度は7月20日(木)に引き続き第2回目の実施となります。

園児たちは『インフルエンザにならないためにやってはいけないことは?』『のどに物をつまらせてしまったらどうしたらいいの?』などの4択クイズに挑戦し、その答えを学生たちがわかりやすいようにジェスチャーを交えながら説明すると、真剣な表情

で対処方法について学んでいました。その後、ぬいぐるみを患者さんに見立てた「病院ごっこ」に移ります。園児たちは各々のぬいぐるみに付き添い、医師・看護師役の学生からの『今日はどうしましたか?』『どのように痛むのかな?』といった質問に答え、検査や治療をしてもらいます。また診察が終わると、実際に聴診器をあててもらい、自分の心音を聞くなどの医療体験を通じて病院への理解を深める園児たちの姿がありました。



## 課外活動備品の購入補助を行いました

この度、課外活動に係る備品購入申請のあった11団体のうち、6団体（ソフトテニス部、茶道部、雪艇倶楽部、バドミントン部、競技スキー部、室内合奏団）に対し、備品購入の補助を行いました。

今回は、予算の都合もあり申請のあった全

団体の要望に応えることはできませんでした。緊急度・重要性を考慮し、テントや譜面台などを購入しました。

来年度も学生団体への物品購入補助を行う予定です。購入補助を希望する団体は、今後お知らせします時期に申請してください。

## 医学科第5学年地域枠学生との懇談会を開催

本学学生のキャリアプラン支援委員会の主催により、医学科第5学年地域枠学生との懇談会が、平成30年2月2日(金)本学第一会議室において開催されました。

懇談会には、医学科第5学年の56名と、大学側からは、吉田学長をはじめ、卒後臨床研修センター、教育センター、入学センター及びキャリアプラン支援委員会の委員の先生方11名が参加されました。

懇談会では、まず初めに、吉田学長から「地域枠入学者に係る基本的な考え方等」と「マッチング推移」についての説明があり、次いで、卒後臨床研修センター長 山本教授

から「本学の卒後臨床研修プログラム」についての説明が行われました。さらに、教育センター副センター長 佐藤教授からは2018年度からスタート予定の「新専門医制度」について、分かりやすくお話いただきました。

その後の質疑応答では、学生から、卒後臨床研修プログラムに関する質問や、自らのキャリアプランについての相談等があり、活発な意見交換が行われました。大学では、今後も、色々な形で情報提供を行っていきますので、不明な点などがある場合には、卒後臨床研修センターや学生支援課にお気軽にお問い合わせください。



## 学生団体代表者との懇談会を実施しました

2月1日(木)17時30分から第4講義室において、体育系37団体、文化系33団体、合計70団体の各代表者及び学生会長との懇談会を実施しました。この懇談会は、課外活動を行ううえで注意してもらいたい事項や、守るべきルールやマナーについて再認識してもらい、部員に周知徹底してもらうこと、同時に、学生からの要望や意見を把握することを目的として開催され、大学からは、千石教務・厚生委員会委員長と川村保健管理センター長が参加しました。

特に注意してもらいたいこととして、未成年の飲酒禁止や自宅アパートで飲み会を開催して近隣住民に迷惑をかけないこと等、最近問題となっていることが取り上げられました。

また、SNSの利用については、何気なくアップした写真等により、刑事責任を問われるケースに発展する危険性があることが説明され、医療者を目指す学生が問題を起こした場合には、社会的に大きく取り上げられる可能性が高いとして、注意喚起がなされました。

大学からの注意事項は以下のとおりです。今一度、一人一人、自身の行動を見直してください。

### 1. 学内でのルール・マナー

- ・屋内での走行練習での衝突事故の防止
- ・部活動で発生したゴミは放置せず、ゴミ箱又はゴミ袋へ捨てること
- ・構内での駐車場利用ルールを守ること

### 2. 病院でのルール・マナー

- ・院内ローソンイートインコーナーでは、病院利用者に配慮した行動をとること
- ・患者情報の取扱いについては十分注意すること

### 3. 学外でのルール・マナー

- ・自宅アパートで近隣住民への迷惑行為は行わないこと
- ・近隣店舗での迷惑行為は行わないこと
- ・遠征での公共交通機関を利用する際は、節度ある行動をとること

### 4. 団体内での配慮について

- ・部員への活動参加は強制しないこと
- ・未成年の飲酒については絶対させないこと
- ・医療者を目指す者として、部員の体調や試験前の活動について配慮すること

### 5. インターネット掲示板、SNS等の利用について

- ・特性や自ら負うべき責任を認識すること



## 新歓行事等における飲酒事故の防止について

4月になると新入学生を迎え、部活動等による新入生歓迎行事が開かれます。何かとお酒を飲む機会も増えるかと思いますが、以下のことについて確認し、事故を発生させないよう、節度ある行動を心がけてください。

また、本学学生の懲戒規程に基づき、以下の事項に反する行為を確認した場合は、大学として懲戒を含め厳正に対処します。

1. 未成年者は飲酒しないこと。また、未成年者に飲酒を勧めないこと。
2. 体質的にアルコールを受け付けない人に飲酒を勧めないこと。
3. イッキ飲み等の危険な飲酒はしないこと。させないこと。
4. 飲酒をしたら、自動車・バイク・自転車の運転をしないこと。
5. アパートや公共の場所で騒音を出さないこと。
6. ゴミは放置せず、分別して捨てること。

こんな飲み会こわい。ぜんぶアルハラです。 —イッキ飲み防止連絡協議会から—

\*酔いつぶすことを目的にしている。「つぶれ部屋」を用意している。

\*ソフトドリンクを用意しない。ソフトドリンクを注文させない。

\*伝統やしきたりでイッキ飲みをさせる。

\*罰ゲームの一環としてお酒を飲ませる。

\*飲酒を断りづらい空気や、場を盛り上げるために飲酒する雰囲気がある。

\*体質的にお酒が飲めない人や未成年者、車や自転車を運転する人に飲酒をすすめる。

\*酔って暴言をはく、暴力をふるう、セクハラをする、性的暴行に及ぶ。

## 安否確認システムへのメールアドレスの登録について

本学では危機管理体制の強化を図り、災害、犯罪被害、弾道ミサイル発射などの危機等発生時における学生及び職員の負傷の状況や安否情報を収集する一手段として、携帯電話・スマートフォンのメール機能を利用した「安否確認システム」（以下「システム」といいます。）を平成26年度から導入しています。

平成29年度は、11月6日(月)に道内5大学と合同でシステムを利用した模擬訓練を実施し、本学では登録者のうち約4割の学生の参加がありました。

しかしながら、現時点での学生の登録率は49%と昨年度から増加しているものの、依然低い状況です。

ついては、危機等発生時にシステムによる安否確認情報が大学運営にあたっての重要な情報となりますので、未だ安否確認システムにメールアドレスを登録していない学生は、速やかに登録を行ってください。

なお、システムに対応していない携帯電話・スマートフォンを利用している場合は、学生番号、氏名、システムを利用できない状況等を学生支援課学生総務係までお知らせください。

### ▼安否確認システム 登録手順マニュアル

[http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/local/anpi/data/anpi\\_manual\\_2016.pdf](http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/local/anpi/data/anpi_manual_2016.pdf)

(注1) 登録方法は職員と学生で異なります。学生用のメールアドレス又はURLへアクセスしてください。

(注2) パスワードはご自身の生年月日を西暦で8ケタを入力してください。

### ▼安否確認システムに関するFAQ（平成28年11月15日更新）

[http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/local/anpi/data/anpi\\_faq\\_20161115.pdf](http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/local/anpi/data/anpi_faq_20161115.pdf)

## ソーシャルメディアの適切な利用について

スマートフォンの普及に伴い、誰でも手軽に広く情報を発信することができる「ソーシャルメディア」（Twitter、Facebook、LINE、Instagram、Google+等）が広く社会に浸透し、今や学生生活には欠かせないツールとなりました。

しかし、仲間同士で楽しく活用できる反面、その影響力に対する認識不足から、発言内容が思わぬトラブルにつながる事例も発生しています。全国的にも、若者を中心とした不適切な発言や写真投稿によりSNSが炎上するというニュースが相次いでいます。



ソーシャルメディアには、読者を限定して情報を発信できるものもありますが、設定によっては、不特定多数の人が皆さんの発信した情報を見ることができます。一度発信した情報は、完全に削除することはできませんので、情報を発信する際には、常に公開範囲の設定がどうなっているかを確認してください。皆さんの何気ないちょっとした発言により、傷ついたり、不快に感じたりする人がいることを常に意識し、社会に大きな影響を与える場合があることを自覚してください。

また、ソーシャルメディアを利用する際には、法令を遵守することはもちろんのこと、本学の規則も遵守してください。大学や病院、臨床実習先で知り得た情報には、守秘義務が課せられていますので、このような情報を不用意に発信しないよう十分注意してください。本学学生として良識ある発言を心がけ、皆さんの行動や発言が、本学の信用に大きな影響を及ぼすことを自覚してください。

なお、ソーシャルメディアの不適切な利用が認められた際は、懲戒処分の対象とすることがあります。

## ◎保健管理センターの開所時間

9:00~16:30 (土・日・祝日及び春季、夏季、冬季学生休業期間は閉所)

## ◎健康相談日 (定期健診が行われる日は閉所します。緊急時は対応します)

主な相談内容	相談医等		定期相談日	相談時間
内科・外科	第二外科 医師	合地 美香子	毎週木曜日	月～金 昼休み
内科	第一内科 医師	中川 直樹	毎週水曜日	
	第二内科 医師	滝山 由美	毎週火曜日	
	第三内科 医師	林 明宏	毎週月曜日	
*精神神経科	精神神経科 医師	田村 義之	毎月2回 (金曜日)	
*整形外科	整形外科 医師	谷野 弘昌	毎月第1・3月曜日	
*皮膚科	皮膚科 医師	高橋 憲義	毎月1回 (水曜日)	
*泌尿器科	泌尿器科 医師	北 雅史	毎月1回 (金曜日)	
*眼科	眼科 医師	木ノ内 玲子 西川 典子	毎月第1・3水曜日	
*耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科 医師	長門 利純	毎月1回 (金曜日)	
*婦人科	産科婦人科 医師	横浜 祐子	毎月1回 (木曜日以外)	
*歯科	歯科口腔外科 歯科医師	佐藤 栄晃	毎月1回 (木曜日以外)	
健康相談全般	保健管理センター長 川村 祐一郎		原則として毎週金曜日昼休み 緊急の場合にはそれ以外でも可	

(注) \*印の付いている科の相談希望の場合は、前日までの予約が必要です。

(整形外科以外は相談日が未定のため、相談依頼により対応します)

定期相談日等は、都合により変更することがありますが、その都度お知らせします。

体温計は、ありますか？  
健康管理のために、  
用意しておきましょう！！



保健管理センター来所時には、保険証は  
必要ありませんが、他医療機関を受診する場合には  
必要となります。必ず用意しておきましょう



## 【 今年度行われる保健管理センターに関する主な行事 】

### \*新入生ガイダンス（医学科1年・2年編入・看護学科1年）

医学科・看護学科1年 4月11日(水) 8:40~10:50 (1・2講目) 大講義室  
医学科2年編入 4月11日(水) 15:20~16:20 (6講目) 保健管理センター

### \*定期健康診断（全学年）

第1回目 4月12日(木) 医学科3年・医学科4年・看護学科2年  
第2回目 4月18日(水) 医学科1年・看護学科3年  
第3回目 4月24日(火) 看護学科1年  
第4回目 5月9日(水) 医学科2年

(上記以外の学生は都合の良い日程で受診)

受付時間 12:30 ~ 14:30 **時間厳守**

◇受付場所は学生玄関です。

(学生証を持参し、ファイル等を受け取って下さい)

◇健康診断受診の注意事項

◎レントゲン検査 … 上着は無地のTシャツ等を着用。

アクセサリは付けない。

長髪はアップに(肩周囲に髪がかからない)

◎体脂肪測定 …… 裸足で測定。(パンスト・タイツ等では測定不能)

◎血圧・血液検査 … 腕回りを締め付けない服、袖が楽にめくれる服

**※健診は静かに受けましょう。医師診察に支障をきたします。**



### \*新入生定期健診血液検査結果説明会（医学科1年・2年編入・看護学科1年）

医学科1年 5月7日(月) 14:10 ~ (5講目) 第6講義室

看護学科1年 5月10日(木) 15:20 ~ (6講目) C講義室

医学科2年編入 5月中旬以降に実施 場所:保健管理センター

### \*B型肝炎ワクチン接種（医学科3・4年・看護学科2年）

ワクチン接種 ・一回目 4月18日(水)・19日(木)・20日(金)

(全3回接種) ・二回目 5月23日(水)・24日(木)・25日(金)

・三回目 10月17日(水)・18日(木)・19日(金)

時間:15:20~17:00 場所:セミナー室5

**※毎回、3日間の都合の良い日1日で受ける。**

**\*実習前感染対策抗体検査（医学科4年・看護学科2年）**

- 抗体検査採血 11月20日(火)・21日(水)・22日(木)  
時間：15：20～17：00 場所：セミナー室5  
(医学科4年は、クイクセルバッジ用採血も同時に行います)

**\*抗体検査結果説明会（医学科4年・看護学科2年）**

- 医学科4年 12月（試験週中の日時を設定し事前に周知します）
- 看護学科2年 平成31年1月15日(火) 8：40～（1講目）B講義室

**\*実習前ガイダンス** 随時、要請があった時に行います。

**【 その他の利用法 】**

**\*健康診断書の発行**

奨学金の申請、就職、大学院入試出願、臨床実習等に必要な健康診断書は、定期健康診断書を受けていない場合は発行できませんので、定期健康診断を必ず全員毎年受けて下さい。

**連絡先**

保健管理センター 0166 (68) 2768

**※保健管理センターからの着信があった時は、必ず返信するか、来所して下さい。**

**※保健管理センターから重要なお知らせ等をメールで行うことがあるため、定期的にメールを確認して下さい。**

## ご存知ですか？大学内で国民年金の学生納付特例申請が可能です！

本学は国民年金法の規程に基づく学生納付特例事務法人の指定を受けているため、本学学生支援課の窓口でも、学生納付特例制度の申請手続きができます。

学生納付特例制度は、学生の皆さんが、申請により保険料の納付が猶予される制度です。この制度を利用することで、万一の事故などにより障害を負ったときの障害基礎年金の受給資格を確保することができます。



申請書類は学生支援課にありますので、申請を希望する方は、学生支援課学生総務係までお越しください。住民票を旭川市に移していない方でも、大学内で申請可能です。

### 学生納付特例制度とは？

所得の少ない学生の方が、国民年金保険料の納付を先送り(猶予)できる制度です。

- \* 病気やけがで障害が残ったときも障害基礎年金を受け取ることができます。
- \* 所得の目安は、 $118万円 + 扶養親族等の数 \times 38万円$  で計算した額以下である場合です。

### 学生納付特例期間の年金はどうなるの？

将来受け取る年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

	老齢基礎年金		障害基礎年金(注1) 遺族基礎年金
	受給資格期間への算入	年金額への反映	受給資格期間への算入
納付	○	○	○
学生納付特例	○	×(注2)	○
未納	×	×	×

(注1) 障害基礎年金および遺族基礎年金を受け取るには一定の要件があります。

(注2) 保険料を10年以内に納付(追納)すると年金額に反映されます。

### 申請時の注意点

- 申請できる期間
  - \* 過去期間は申請書が受理された月から2年1か月前(既に保険料が納付済の月を除く)まで、将来は年度末まで申請できます。
- 申請に必要な書類
  - \* 申請書
  - \* 年金手帳(氏名記載ページ)のコピーと学生証
  - \* 失業等の理由により申請を行う場合は、失業した事実が確認できる雇用保険受給資格証又は雇用保険被保険者離職票等のコピー

※本学ではマイナンバーを使った学生納付特例申請は出来ません。マイナンバーを使用して申請したい場合には、お近くの年金事務所での申請をお願いいたします。

## 教 員 の 移 動

平成30年2月1日 昇 任 知的財産センター

准教授 尾 川 直 樹

## 今後のスケジュール

4月6日(金) 入学式

4月9日(月)・10日(火) 新入生合同研修会

6月8日(金)～10日(日) 医大祭

### 【授業開始日】

医学科第1学年、看護学科第1学年 4月11日(水)

医学科第2～4学年、看護学科第2～4学年 4月9日(月)

医学科第5・6学年 4月2日(月)

## 訃報



本学名誉教授 久津見 晴彦氏（享年90才）には、平成29年12月30日（土）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和50年4月本学医学部寄生虫学講座教授に就任され、平成6年3月定年により退職、同年4月本学名誉教授の称号を授与されました。

この間、永年にわたって、医学の研究と学生の教育・指導にご尽力され、本学の発展に多大な貢献をなされました。

学術研究面においては、人体寄生虫病の臨床生化学、疫学を専門とし、WHOの重要課題としての住血吸虫症、フィラリア症、マラリア等の寄生虫疾患について、感染、免疫、生化学、疫学等の基礎医学的研究、並びにそれらの治療剤の開発、効果判定等の臨床的研究に業績を挙げられ、特に駆虫剤の寄生虫卵殺滅効果の発見は学会で高い評価を受けられました。

また、同氏は日本寄生虫学会評議員・幹事、日本臨床寄生虫研究会評議員、北海道医学会評議員等、各分野において広範な学会活動を行い、医学の発展に尽力、寄与されました。

教育面では基礎医学及び大学院において教育・研究指導に情熱を注がれ、講座創設以来、本学の基礎作りとその後の発展に寄与された功績はまことに顕著でありました。

（総務課）

## 訃報



本学放射線医学講座教授 高橋康二氏（60才）には、平成30年2月2日（金）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、平成20年12月本学病院放射線部長に就任、その後平成26年1月16日教授に就任され、本学病院の管理運営、医学の研究、学生の教育・研究指導にあたられ、医学の発展並びに地域医療の支援にご尽力され、その功績は誠に顕著でありました。

学術研究面では、胸部画像診断及び胸腹部IVRの分野でご活躍され、肺動静脈奇形における interlocking detachable coil による短絡路塞栓術を開発、また胃静脈瘤のバルーン閉塞下逆行性硬化療法におけるマイクロカテーテルを用いた選択的硬化療法を考案されるなど、その優れた功績は高く評価されております。

また同氏は、日本医学放射線学会代議員、日本インターベンショナルラジオロジー学会評議員、日本画像医学会評議員など国内外の多くの学会でご活躍されました。

診療面では、道内地域中核病院で行う遠隔画像診断にも力を注がれ、質の高い読影や読影結果の迅速な提供など、地域医療連携に多大な貢献をされました。

（総務課）